



ちよいとした
大人のラブストーリー



台本

大沼孝次

※ちょっとだけ直しました。赤字の部分です。

ちょいとした大人のらぶ・すとーりー

■ ストーリー概要と映像の特徴

15分くらいの短編。うーん、15分でおさまるかなあ？

男と女の2人芝居。

撮影は土曜か日曜11時頃からスタートかな、終わりは20時くらいまで。

1日で、一度だけで役者の表情勝負。

役名検討中。どうしようか？

衣装チェンジ頻繁なので、うちの近くがいいな。

ロケ地は東高円寺でやろうか？

公園もあるしね。

ごく普通の人を描きたいので、派手な服装はナシ。

断片的、数多くのイメージ動画で構成。

人ごみのなかを歩いている横顔、路地を1人で立っている絵とかね。

男は離婚して4年くらい、女は離婚して2年くらいで子どもがいる。

男はこの女のことが好きなんだけど、深く踏み込めない。

女も同じような感じ。

ストレスのきつい職場で、それぞれ働いている。

女は子どものために、がんばって明るく生きている。

地味めのOL制服、普段着3種類くらい欲しいかな？

男も同じ。居酒屋さんの店員。

■ 台詞

男、昼間、路地あたりに、居酒屋Tシャツ、サロン姿で。

タバコふかしてる。その腕にバンソコついでる。

通りを制服姿で歩く女。

男、彼女の姿を見つけて声をかける。

男「おはよー」

女「おはようございます」

女、笑顔。

女「どうしたの？それ？」と男に近寄る。

男「あ、ああ。やけどしたー」

女「気をつけなさいよ」

男「うん…。あ、今日ね、日替わりはレバニラー！ざんねーん！あなたレバー食べられないでしょうー。あのさあ、レバー食べれないのに、カキフライ好きって、おかしくない？」

女「あはは、じゃあね」

と、女、手を振り立ち去る。

この街で人々が働いて、そして陽が暮れてゆく。

そんな断片的な、とても短いイメージ映像を何枚か入れます。

場面変わります。

そんな夕方、同じ路地あたりに、私服の男。

ビール片手に、タバコふかして立ってる。

再び女、今度は私服で通り過ぎる。

女、ちらっ、と男を見つけて近寄る。

女「あれ？もう、おしまい？はやいね」

男「うん。今日は、もう疲れちゃった。金曜日で燃え尽きる。土日は、もう、ちょっとしか働かない」

女「びーる」と笑う。

男「そうそう。仕事終わったらさあ、びーるでしょう。ちらっと、飲まない？カキフライすごい美味しい店あんだよ。そういうところ、行ったことないでしょ、あなた」

女「だめだめ。子ども待ってるから」

男「そうか」

女「うん…。帰らないの？」

男「うん…。いや、帰るよ」

女「どっち？」

男「むこう。じゃあね」

と、2人、それぞれに手を振って別れる。

電車のなかの女の横顔の絵みたいな、そんなの入れるかな。

すべての楽しみを棄てて、子どもだけのために生きているわけですよ。

一方の男も、心に引っかかってて。

そんな顔、入れよう。

昼間、制服姿の女。

休憩なんだろうね。

1人で、公園のベンチで。

女「もう、嫌だな...」

仕事つらいんだろうね。

ため息、ついでる。

かわいそうね。

場面変わり。

路地に立ってる居酒屋服の男。

時々、休憩でタバコすってんだね。

このシーンは夜がいいかな。

女は私服で帰宅途中かな？

男「仕事、楽しい？」

女「うん。楽しいよ」と笑顔。

男「そう。よかった」

手を振って別れる。

男が、女を見送ってる顔入る。

場面変わります。

昼間、また路地で男、ぼんやりタバコ中。

かなり、疲れてます。

目を開けると、目の前に制服姿の彼女がいます。

女「カキフライ、食べた？」

男「えっ？いく？ああ、今日だったらいけるよ」

女「どうしようかな...」

男「ちょっとだけ、いこうよ」

女「いまシーズンだっけ？」

男「いま、いつだったあんだよ。いこう」

女「うーん...やっぱりやめとく」

と、苦笑いで立ち去る女。

男「夕方、待ってっから」

いい、いい、と苦笑いで手を振り小走りで逃げる女。

陽がくれました。

私服姿の男、待ってます。

私服姿の女、歩いてきます。

女、笑顔。

女「ほんとに？待ってたんだあ」

男「うん。ちょっとだけ、いこうよ」

女「近いの？」

男「うん。すぐ近くだよ」

と、2人、並んで歩く。

人ごみのなかを入れてゆく。

以下の会話は、音声と絵は別々にします。

2人は同じ時間を過ごしています。

それぞれの表情や会話をしている雰囲気。

女「みんな、すごい。マネージャーの機嫌とってて。あたし、それ、やらないから。だから、すごく言われちゃうの」

男「ああ...」

女「わかる？」

男「うん。わかるよ」

女「ある？そういうこと？」

男「あるよ...すごい言われかたするよ」

女「ああ。そうなの」

男「うん。たいへんだよ」

女「銀座とか麻布とか、すごい豪華なレストラン。いつも、そういうところに連れてって来て。すごいホテルに泊まって。そんなところ、行ったことなかったから」

男「プリンセスみたいなの？」

女「そうそう。もう、気持ちが高まっちゃって。付き合って二ヶ月でプロポーズされて」

男「お金持ちだったんだ？」

女「うーん...そうでもない。家のことはなにもしない人だった。ぜんぶ、あたしがやれ、って。それで、すぐ子どもができて。妊娠してセックスできないって、女つくって。精神的におかしくなっちゃって、ずいぶん、ひどいことされた。もう、とっっても耐えられなくて。二年前に別れたの」

男「いま、お金、もらってるの？」

女「ううん。ぜんぜん。でも、あたしには子どもがいるから。ああ、神様、ありがとう、って。子どもは？」

男「いや。いない。夫婦仲わるかったからね。そんななかで子ども、かわいそうでしょ？だから作らなかった」

女「どうして別れちゃったの？」

男「うーん...。まあ、おれが悪いんだよ。不況で仕事、うまくいかなくなっちゃったから」

女「そう...さびしくない？」

男「うーん...クリスマスとかね。ちょっと」

女「そう」

男「おれ、お金、あったらなあ。お金、あったら、〇〇さんと結婚しちゃうのにな」

女「お金なんて...」

男「いやあ、子どもはかかるよ。お金」

女「うん...」

男「お金持ちの人と再婚できれば、生活は楽になるんじゃない？」

女「うん...だめなんだよね、あたし。昔から」

男「うん、ちょっとね。こわいよね」

女「ある、そういうの？」

男「あるよ。なんか、やっぱ、こわいよね」

女「そうよね」

男「セックスだけしてても、しょうがないもんね」

女「そうね...友だち、かな...」

夜、人ごみの街、で場面チェンジ。

また、この街の朝がやってきて、また暮れてゆく。

イメージ・ショット。

それぞれに人々が、それぞれの想いを抱いて生きている。

そして再び、夕暮れ時。

私服姿の2人。

見詰め合っています。

女「仕事、やめるの？」

男「うん。〇〇さんに会えて、よかった」

女「そう」と複雑な笑顔の演技。

男「〇〇さんの目、きれいね」

女「...」

男「お金なくても、なんとかなるんじゃないのかな」

さて、ここでエンディング。

夕日をバックに。

キス。

かなあ...もっと感動的なエンディング、ないかなあ、と悩み中です。

アイデア募集中。

エンディング候補曲。

著作権侵害なし。使うとしたら2番のサビのあたりから。

でも、うーん、これも悩み中。

<https://www.youtube.com/watch?v=bwkS9bUWApo>